

## 令和4年度 第1回 松戸市子ども・子育て会議 議事録

1. 日時	令和4年7月22日（金）18：30～19：45
2. 場所	Zoomによるオンライン開催（議会棟3階 特別委員会室）
3. 出席者	<p>&lt;委員&gt;（50音順）17名          明田委員、安達委員、阿部委員、石垣委員、石田委員、荻野委員、神谷委員、久川委員、小松委員、坂野委員、鈴木委員、千石委員、堤委員、寺田委員、百田委員、文入委員、宮下委員</p> <p>&lt;松戸市&gt;          子ども部長、子ども政策課長、子どもの未来応援担当室長、子育て支援課長、児童給付担当室長、幼児教育課長、子ども家庭相談課長、母子保健担当室長、保育課長、指導監、入所入園担当室長、保育運営担当室長、事務局（子ども政策課）ほか</p>
4. 傍聴者	3名
5. 議題	(1) 第2期子ども総合計画の中間年見直しについて (2) 夜間放課後児童クラブについて
6. 資料	[資料1-1] 第2期子ども総合計画の中間年見直しについて [資料1-2] 第2期松戸市子ども・子育て支援事業計画進捗管理表 [資料1-3] 松戸市子ども・子育て支援に関するアンケート 調査票 [資料2] 夜間放課後児童クラブについて

### 1 開会

○会議の成立

（事務局）

総委員数 21 名、17 名出席。

「松戸市子ども・子育て会議条例」第6条第2項の規定により、会長の成立を報告。

### 2 子ども部長挨拶

### 3 新任委員の紹介

○新任委員（堤委員）の紹介

事前に委嘱状を交付したことを報告。

○傍聴の受入れ及び議事録の作成・公開について

（事務局）

「松戸市情報公開条例第32条」の規定により、公開を原則として会議を開催し、傍聴

者の受け入れを許可したい。3名の方からの傍聴の申し出があり、別室に設けたスクリーンにて会議を傍聴していただく。また、要約による議事録を作成し、公開をしたい。また、ZOOMのレコーディング機能による機能を取らせていただきたい。

(坂野会長)

公開することを了承し、傍聴者の受け入れを許可する。

#### 4 議題

##### (1) 第2期子ども総合計画の中間年見直しについて

資料1-1「第2期子ども総合計画の中間年見直しについて」を用いて説明を行った。

※ 質問等は特になし。

##### (2) 夜間放課後児童クラブについて

資料2「夜間放課後児童クラブについて」を用いて説明を行った。

(神谷委員)

このようにきちんと決着したことは大変喜ばしいが、子ども・子育て会議でのご意見は保護者の視点が多く、非常に残念だと思っている。子どもの声を代弁するというのが、この会議が始まったときの合言葉だった。それがいつしか働く親の権利についての議論が中心になってきている。私たちの会議は、子どもの意見を、子どもの現場にいる人たちがしっかり代弁できる唯一の会議であり、この初心を忘れた結果だとして危惧している。

子どもたちの立場に立って、子どもたちの声を代弁することを今後みなさんの心に留めておいていただきたい。結論は良かった。議論した価値があったと感じている。

(坂野会長)

子ども・子育て会議の創設期のお話をしていただいた。私としては、子どもの立場も保護者の立場も、両方の意見があってよいと思っているので、多元的な意見をみなさまから伺いたいと思う。

(文入委員)

松戸市放課後児童クラブ法人連絡会の意見に、「必要経費に対し、月1,000円の料金は安すぎる」とあるが、何に対して、どうかたちで安すぎるのか、内容が分かれば教えてほしい。

(子育て支援課長)

こちらは、1時間あたり月1,000円という料金設定が、これにかかる人件費を考えたときに安すぎるのではないかというご意見だった。

(坂野会長)

全体を通じて、皆様からご意見を承っていきたいと思う。

(明田委員)

意見等は特になし。

(安達委員)

神谷先生のお話が大変勉強になった。

(石垣委員)

意見等は特になし。

(石田委員)

計画の見直しに当たって、人口の推移からの見直しはあると思うが、新型コロナウイルスの影響も大きいと思う。利用したくても、利用できなかった人もかなり多いと思うので、その人数も見込んで計画を立てていただきたいと思う。また、数値的な目標も大事だが、中身も本当に大事だと思うので、それも合わせて考えてもらえたらと思う。

(荻野委員)

意見等は特になし。

(久川委員)

先程石田委員から、数値の見直しも大事だが、中身もというところに共感した。データとして出てくるものに対して敏感になるかと思うが、保育や教育を担う先生方へのケアや待遇も考えていただけたらと思う。

(小松委員)

これから市民に対してアンケートを行うとのことなので、うまく見直しをしていただきたい。新型コロナウイルスが収束することはないので、新型コロナウイルスとの共存を踏まえた内容とする必要性があると考えている。

(鈴木委員)

計画の見直しについては、意見があれば後ほど意見書にて提出をしたいと思う。夜間放課後児童クラブについては、バランスのよい結論になったかと感じている。先ほど神谷先生がおっしゃった子どもの声の代弁という意味では、ほとんどの子どもたちが親と一緒にいたいとの気持ちが強いのではないかと想像している。働く親のサポート、親のキャリアも大事だが、働かずに子どもと共にいることを選択したご家庭への支援についても、行政のみなさんには強くしていただけるよう期待している。

(千石委員)

夜間放課後児童クラブについて最初に聞いたのは、前々回の会議のときだった。多様性が進む中でこのような支援制度が必要なのはよく分かるが、事業者が中心となって考えていくべきだとあのとき思った。実際に今の話の中では、事業者が対応を検討していくということなので、非常によいことだと思った。

最近、松戸市は子育てしやすいまちを標語に掲げている。神谷先生がおっしゃったように、子どものことを考えてくれる人は誰なのだろうというのをとても感じていた。親に会えるのが10時半とか遅い時間にしかならないのは、子どもとしては辛いのではないかという気がしていた。

(堤委員)

神谷先生がおっしゃった子どもの意見を代弁できる場ということ、とても心に残った。毎日現場にいる者として、今後しっかり子どもの声を拾って、皆さんにお伝えしたいと思った。子育てをサポートする場を充実して保護者をサポートすることで、子どもが虐待されないことにつながっていくと思う。親を守れないと子どもの虐待につながるがあるので、その辺り大事なところだと感じながら聞いていた。

(百田委員)

1点目、神谷先生の発言に対して。MACとしては「子どもの最善の利益」のもとで発言をさせていただいているし、他の団体さんも子どものことを前提に発言しており、子どものことを考えていないわけではないと考えている。

2点目、文入委員のご質問について。現場に二人職員を入れると最低賃金を考えても1時間ですでに2,000円がかかってしまう。利用料と補助金、委託金が出るとしても、その委託金の明細が分からない中では、1時間1,000円では非常に不安定であるという、とても現実的な話。そもそも最低賃金で夜間働いてくれる人を確保できるのかという意見が出ていた。ここでも子どもを優先した議論であったと考えている。この事業がなくなったら、子どもは一人、二人で10時、11時まで家にいるだろうという危惧の声が大きかった。

3点目、数字をもう少し分析することで、質的な評価以外でも見えてくる部分があると

思う。放課後児童クラブで申し上げると、1～3年生は見込みの74%程度、4～6年生は86%程度、学年を分けて見ることでも見えてくるものがあると思う。質的な評価の前に、数字をもう少し評価することができると思う。箇所数についても45だけでなく、何単位のクラブがあるか知っていただきたいと思う。

(宮下委員)

ショートステイ事業を担当しているが、神谷先生のおっしゃるように、子どものことを第一に考えなければならない。何泊かするお子さんの気持ちはどうなのかという部分と、保護者の事情も考えてあげないといけないというのが、ショートステイ事業である。昨今、国の事業説明会でも「断らないショートステイ」という方針を述べられていたが、現状ではすべてを断らないようなマンパワーはない。数字の見直しだけでなく、マンパワーについても責任を持って考えてほしいと思う。

ショートステイで受け入れるお子さんは、障害を持ったお子さんや情緒不安定なお子さん、あるいは児童相談所が定員いっぱい一時保護できないお子さんまでお願いされて預かっている状況。お子さんが嫌な思いをしないような受け入れ体制を確保するためには、ある程度人材の確保に行政が親身になって考えていただかないといけない。夜間放課後児童クラブの見直しにおいて、ショートステイ事業でカバーして対応していくとあったが、決して一時しのぎではなく、市としてどういう体制でショートステイ事業を支えていくのか、真剣に明記してほしいと考えている。

(阿部副会長)

貴重な意見を賜った。色々なご意見が出たので、計画の見直しに勘案いただくことを期待したいと思う。新型コロナウイルスの影響で在宅勤務が増え、保育の利用者が減るとするのは自然な流れだが、このまま行くとはいえない。収束の見通しが立っていない中で、見込みを下方修正するのは分かるが、子どもの居場所づくりという視点においては、安易な下方修正はかなり問題があるかと私も思う。今の状況の中での下方修正という判断であり、この先子どもの居場所づくりを充実させるということは押さえておかなければならない。

時代も色々厳しい。親御さんたちも厳しい思いで子どもたちを預けたり、仕事をしたりと、バランスを図っておられると思う。私たちを取り巻く経済的、社会的な問題は大きい。ここを重く受け止めながら、社会的に親御さんやお子さんたちを支え続けていく施策を会議が担っていく役割があるのだと、今日改めて気持ちを引き締める思いがした。

## 5 その他

- 第2期子どもの未来応援プランの策定について  
令和4年3月に策定した旨を報告

## 6 閉会

### ○事務連絡

(事務局)

本日の議題に関係して発言できなかったご意見、その他ご要望などは、意見票にご記入いただき、7月29日(金)までに、FAX、メール、郵便等にて事務局まで。

### ○次回の会議の開催

(事務局)

次回の会議については10月または11月の開催を予定している。